

(別紙) 「第5回加東市消防団のあり方検討委員会」会議の経過

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1)第1回から第4回までのまとめについて

(2)加東市消防団の今後のあり方について

発言者	説明内容・発言内容等
議長	挨拶
事務局	「第1回から第4回までのまとめについて」の議事説明
議長	前回までの議事説明に対し、意見があれば伺いたい。
委員	有事の際、隣接市町の消防機関はこちらから要請をかけないと応援出動はしてもらえないのか。
議長	以前は、慣例に基づき、火災発生時は協定の有無にかかわらず相互協力で出動していた。
委員	消防団発足時から有事の際は協定の有無にかかわらず相互協力を行っていた。
議長	消防署はどのようになっているのか。
委員	近隣の市町と相互応援協定を提携している。
委員	消防団の活動は、誇りを持って行うものだが、負担が大きいと相反するもので、前回までの議事のとおりと思う。議事の検討内容に「近年団員の確保が困難」とあったが、このことは以前から問題視されている内容で、繰り返し検討を重ねられているように思う。
議長	新しい委員さんから意見を伺いたい。
委員	他市町で分団が無いところはあるのか。
事務局	分団自体は昔の消防組織法に基づき市町村に設置するように義務づけられているので恐らく組織のない自治体はないと思われるが、地区・自治会単位で見ると消防団組織の無い自治会はあると思われる。
委員	消防団既存地区で今度どのように消防団を維持していくかを考えていくことが重要ではないかと思う。
議長	「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が2年前に施行され、今後予測される大災害に対して、地域全体で総力を挙げて対応をしていく必要に迫られている。消防団活動には「誇り」と「負担の大きさ」が相反するものがあるが、今後どのようにして「誇り」を持って活動してもらうために、どうしたらよいか、と考えた時に地域の中にもう少し消防団活動が定着する「しかけ」や市民との接触の場を増やす必要があると思う。加東市の場合はそれぞれに温度差があるので、どういうカード

発言者	説明内容・発言内容等
	<p>を切って「誇り」を持って地域の中で活動していくかを検討するための会である。ただ消防団内だけで議論しても地域と交わらないので、地域の代表者を交えて議事を進めている。</p> <p>消防団組織のない代表として、過去の議事を改めて確認した上で改めて感じた事などがあれば意見を伺いたい。</p>
委員	<p>初回は何もわからないまま委員会に参加し、気持ちの中では消防団に参加した方がいいのは重々理解できたが、仕事との兼ね合いや家族の反対などもあり思いとどまっているのが現状。</p>
議長	<p>女性の立場で意見を伺いたい。</p>
委員	<p>東日本大震災から5年を迎え、災害時の様子が度々テレビなどで見る中で感じたのは、加東市は幸い大きな災害に見舞われたことがないので危機感が薄くなっているのかもしれないが、被災された地域の方々日々の生活など「共助しあい、何とかしなければ。」という強い気持ちがあるので、真剣に取り組む気持ちがあるように思う。</p>
議長	<p>実際、被災体験がある地域は自然と防災意識が高くなっていくが、それが無いと言うのは有難い事であると同時にいざ有事の際に準備不足が災いして悲惨な状況になる。そこが非常にジレンマなところだと思う。</p> <p>今までの意見も踏まえて、消防団幹部からの意見を伺いたい。</p>
委員	<p>以前から問題視されてきた事を行動に移すためにこの委員会が設立された。加東市の有事の際に少しでも人の役に立てる自分でありたいと思う気持ちが「消防団活動の誇り。」なんだと思う。</p>
議長	<p>その他の団幹部の意見を伺いたい。</p>
委員	<p>消防団入団から30年間、消防団活動を行っていく中で自分の世界が広がった。その事に対するお礼の気持ちでまだ入団されていない人達にもこの世界の広がり伝えたい。そして「加東市を災害のない街にしたい。」という気持ちを持って日々の活動を行って欲しい。</p>
議長	<p>その他、意見はありますか。</p>
委員	<p>地元の付き合いはまず消防団から、村の神様のお世話を行ってやっと一人前と認めてもらえるという流れが地区内にある。消防団内で出来る事には団によって温度差があるので、それを改革するにはこういう機会を活かして地域の協力を得ないと難しいが、今がチャンスの時だと思うので、引き続き改革を進めてもらいたい。</p> <p>私はこの度、さまざまな事情で消防団を退団するが、地域に戻って違う視点から消防団を支えていきたいと思っている。</p>
議長	<p>現役消防団員の意見を伺いたい。</p>

発言者	説明内容・発言内容等
委員	私の地区は小さい地区なので有無を言わずに消防団に入団したが、色々な世代の団員との交流などもあり楽しく活動している。
議長	このほかに現役消防団の意見を伺いたい。
委員	消防団へは「入らなければいけないもの。」とっていたので入団した。隣接した他市の有事の際も、地域に関係なく消火活動に行った。取り決めがある無しに関わらず、人としての気持ちで双方の団員と共に相互扶助の関係にある。 今後の団員確保が困難なのが目に見えた課題だと認識している。
議長	別の委員さんの意見を伺いたい。
委員	近年は「自分達の地域は自分達で守る。」という気持ちが希薄しているように思う。現実として、消防団以外にも「子供会」「婦人会」「老人会」などの組織も勧誘に応じず、人が集まらなくなって来ている様に思う。
議長	事務局より次の議題「加東市消防団の今後のあり方について」の説明をお願いしたい。
事務局	議事説明
議長	消防団体験入団制度に関し、リスクも伴う可能性もあるが、団幹部から意見を伺いたい。
委員	個人的には何かアクションを起こさなければ何も始まらないと思うので、やってみる価値はあるのではないかと考えている。
議長	その他の意見を伺いたい。
委員	確かに何もアクションを起こさないよりも試みて、まずは「消防団はそんなに難しい事をしているわけではない。」という事を知ってもらう事が大事。
議長	この他の意見があれば伺いたい。
委員	一番気になるのは「どうやって現状維持をするか。」に重きを置いて話が進んでいるが、現状はその時期は過ぎているように思う。「消防団とは地域にとってどういうものなのか。」というところから考えて行けば団員数が現状の1,200人でなくても600人でも300人でもいいと思う。消防団維持に必要な財源は税金だが、今後少子化が進み財源の確保が難しくなっていくので、減らすものは減らし、充実させるものは充実させ、適材適所を的確に考える時期だと思う。
議長	長期的な消防団のあり方についての意見を聞いた。分団のあり方や定数条例の改定にもかかってくるころだが、「チャレンジ」をテーマとして考えているが、安易に一律に考える事は難しい。オプション提案型で折りこんでいく方向で今後団幹部内にて検討を進めていく。 その他、今後の行事やイベントなどについて意見を伺いたい。
委員	自分が参加するまでは操法大会を見る機会がなかったが、子供達がイベントを機に

発言者	説明内容・発言内容等
	操法大会を見ることや、放水を体験することはすごく良い機会になると思う。
議長	他の委員さんからも意見を伺いたい。
委員	先の説明の最後の話を聞いていると、色々な現状の中でさまざまな状況にあわせて活動する部分があるように受け取れるが、地域にはこれくらいの消防力を備えておく必要があるという事をもっと伝えていくべきであると思う。「あり方検討委員会」として立ち上げたのならば「あるべき論」も議論する必要があるのではないかと。
議長	現在の定数は「消防力の基準」など「あるべき論」を元に割り出されたもので、詳細は不明なので確認したい。
委員	消防署の職員は、人口、面積等により算出されているが、消防団の定数は特に基準がなく、多くの自治体で年々減少傾向にある実人数に応じて定数条例も減らしているところが多い。加東市の隣の市では加東市より人口が多いにもかかわらず、団員数は少ないところもある。
委員	「あるべき論の概念でないといけない。」と言うことではないのか。
委員	加西市消防団では小型ポンプの分団とポンプ車の分団によって定数を定めている。
委員	「消防力の基準」「あるべき論」の概念はあまり重要とすべきではないのか。
議長	<p>なくはないが、今正確な解答は出来ないが、現状の団員数などで、今後も以前のような消防力を保てるのが重要になってくると思う。</p> <p>消防団は、火災の消火活動だけではなく風水害、地震などの対応、人の捜索など幅広い役目も担っている。</p>
委員	<p>消防署が設置されても、消防団は地域には必要不可欠な存在であることは間違いないが、「加東市消防団のあり方」となると「消防力の基準」「あるべき論」なども必要ではないかと思う。</p> <p>また、消防団のPRについて。ただ単純に消防団活動のPRするのではなく、子供の頃から「相互扶助」の中で人の命が守られている、それが「消防団教育」の軸になっている事などを伝えていくことが消防団活動の真のPRになると思う。</p>
議長	委員さんの意見は、長期的に見た「かとう学」につながる重要な項目である。学校教育や自治会との連携が重要になってくるが、消防団への負荷が少なく、目立ったアピールが出来る行事と考え、どのような行事がよいのかを検討する必要があるのではないかと。検討するには、今回の検討委員会での議論の中には組まれていない内容のため、消防団の背景にあるものをしっかりと踏まえ、今後のまとめの中で活かしていければと思う。
委員	地域と消防団との関係性などの教育不足が現状に色濃く反映されているように思うので、「かとう学」の推進を求めたい。
議長	<p>短期では難しいので長期的な取組みとして今後取り入れていく。</p> <p>「かとう学」の中に消防団の事も盛り込んでもらい、幼少期から消防団に対する知識</p>

発言者	説明内容・発言内容等
	<p>を身に付けてもらえるよう試みている。</p> <p>「かとう学」は愛すべき地域の文化、伝統を守ろうとした時に「消防」というものは不可欠なものであるという事を、子供達の意識の中に持ってもらう機会になると思う。</p> <p>次に他の委員さんからも意見を伺いたい。</p>
委員	消防団の必要性について子供たちへの教育が必要であると思う。
事務局	「かとう学」については教育委員会が小中一貫校を目指しており、加東市の特色を学校教育に取り込んでいる。今後、消防団のことも取り上げていきたい。
委員	私も、消防団の必要性の教育を取り入れて欲しいと思う。
議長	子供達への教育方法や現状について、子育て世代の意見を願う。
委員	自分の子供は父親が消防団活動をしていることを知らないと思う。
委員	自分の子供は小さいなりに父親が消防団活動をしている事がわかっているように思う。
委員	親が子供に「消防団は大変」と安易に言ってしまうと、学校などで教育しても意味がなくなると思う。
議長	<p>今年の2月に加東市消防団の現役分団を対象に「消防団活性化提案」をテーマとした研修会を開催したところ、現状から改革提言、そして今後の団の運営のあり方など、非常に多くの前向きな意見が寄せられた。</p> <p>昔の消防団は地区のあらゆる組織の中核を担っていたが、現在はそのような位置づけとなっていない様に思われる。時代は変わっても今後もこの様な意見を出された団員の前向きな意見を尊重し、団活動を我々も後押しをしていきたいと感じた。</p>
事務局	<p>今後の取り組み方法として、「短期的」「中期的」「長期的」な形で出来るところから取り組んで行きたい。</p> <p>今後もこれらの取り組みをすすめる上で、経過報告、評価などを今後も検討するため、改めて会を開催することもあり得るので、よろしくお願ひしたい。</p>
副委員長	何度も申しますが、消防署が組織されていても、消防団の力は今後も必要不可欠な存在である。この加東市消防団のあり方検討委員会をとおして、少しでも現状の消防団員及び消防力の確保を目指して頑張っ欲しいと願っている。

5 閉会